

(イ) 主管(室外側の分岐～室内側の第一分岐間)：図1のB部

最長(室外機から最も近い室内機まで)が90m(実長)以上の場合は、下表の通り吸入ガス管・液管の主管サイズを変更してください。
※最長90m(実長)以上の場合は、吐出ガス管のサイズは変更しません。

室外機	主管			サイズアップ後の配管サイズ		
	吸入ガス管	吐出ガス管	液管	吸入ガス管	吐出ガス管	液管
224	φ19.05×t1.0	φ15.88×t1.0	φ9.52×t0.8	φ22.22×t1.0	φ15.88×t1.0	φ12.7×t0.8
280	φ22.22×t1.0	φ19.05×t1.0		φ25.4×t1.0	φ19.05×t1.0	
335	φ25.4×t1.0					
400						
450	φ28.58×t1.0	φ22.22×t1.0	φ12.7×t0.8	φ31.8×t1.1	φ22.22×t1.0	φ15.88×t1.0
500						
560						
615						
670	φ31.8×t1.1	φ25.4×t1.0	φ15.88×t1.0	φ38.1×t1.35	φ25.4×t1.0	φ19.05×t1.0
730						
775						
850						
900	φ38.1×t1.35	φ31.8×t1.1	φ19.05×t1.0	φ31.8×t1.1	φ22.22×t1.0	φ22.22×t1.0
950						
1000						
1060						
1120	φ38.1×t1.35	φ31.8×t1.1	φ19.05×t1.0	φ31.8×t1.1	φ22.22×t1.0	φ22.22×t1.0
1180						
1220						
1280						
1360	φ38.1×t1.35	φ31.8×t1.1	φ19.05×t1.0	φ31.8×t1.1	φ22.22×t1.0	φ22.22×t1.0
1400						
1450						
1500						

φ19.05以上はC1220T-1／2H材を使用ください。

(ウ) 室内側の第一分岐～室内側の分岐間：図1のC部

下流に接続される室内機の容量の合計により下表により選定ください。但し、主管(図1のB部)サイズを超えないでください。

室内機合計容量	吸入ガス管 (ガス管)	吐出ガス管	液管
70未満	φ12.7 × t 0.8	φ9.52 × t 0.8	φ 9.52× t 0.8
70以上～ 180未満	φ15.88× t 1.0	φ12.7 × t 0.8	
180以上～ 371未満	φ19.05× t 1.0	φ15.88× t 1.0	φ12.7 × t 0.8
371以上～ 540未満	φ25.4 × t 1.0	φ22.22× t 1.0	
540以上～ 700未満	φ28.58× t 1.0	φ25.4 × t 1.0	φ15.88× t 1.0
700以上～1100未満	φ31.8 × t 1.1	φ28.58× t 1.0	
1100以上	φ38.1 × t 1.35	φ31.8 × t 1.1	φ19.05× t 1.0

φ19.05以上はC1220T-1／2H材を使用ください。

※1：下流に室内機280を接続する場合かつ主管のガス管サイズがφ22.22以上の場合は、φ22.22×t1.0を使用ください。

(エ) 室内側分岐～室内機間：図1のD部

室内機接続配管サイズ表 但し、主管(図1のB部)サイズを超えないでください。

分流通ントローラより下流では吐出ガス管の接続は不要です。

室内機	容量	吸入ガス管 (ガス管)	吐出ガス管	液管
		φ9.52 × t 0.8	φ6.35 × t 0.8	φ 6.35× t 0.8
	22, 28	φ9.52 × t 0.8	φ6.35 × t 0.8	φ 9.52× t 0.8
	36, 45, 56	φ12.7 × t 0.8	φ9.52 × t 0.8	
	71, 80, 90, 112, 140, 160	φ15.88× t 1.0	φ12.7 × t 0.8	
	224	φ19.05× t 1.0	φ15.88× t 1.0	
	280	φ22.22× t 1.0	φ19.05× t 1.0	

φ19.05以上はC1220T-1／2H材を使用ください。

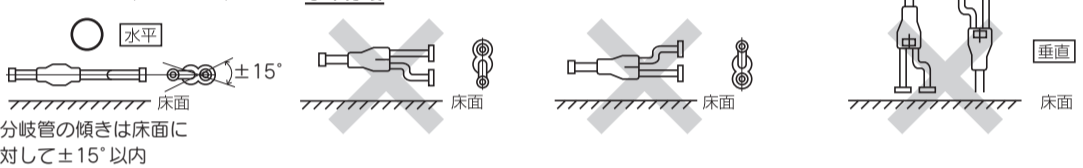
(4) 室外側分岐管セット選定

本分岐管セットは室外組合せユニット時に必ず必要となります。

(単独ユニットとして使用する場合は必要ありません。)

お願い

- 室外機との接続管は室外機の接続配管サイズに合わせてください。
- 室内機側への配管(＝主管)は主管サイズに合わせてください。
- 分岐継手(ガス・液共)は必ず“**水平分岐**”するように設置してください。



(5) 室内側分岐管セット選定

(ア) 分岐管セット選定方法

●分岐管サイズは室内機の接続容量(下流の合計容量)により異なりますので右表より設定ください。

お願い

- 室内機と室内側分岐管の配管サイズは室内機の接続配管サイズに合わせてください。
- 分岐継手(ガス・液共)は必ず“**水平分岐**”又は“**垂直分岐**”するように設置してください。

●組合せ機は、以下の内容に注意し、配管工事を実施してください。

の組合せ機は、下図のようにガス管および液管ともに、必ず分岐管(型式DOS)前に500mm以上の直管部を確保してください。

の組合せ機は、下図のように配管接続系統において室内機に近い室外機を、組合せ室外機中で最も小さい容量とし、室内機から遠い室外機を組合せ室外機中で最も大きい容量としてください(同じ容量の組合せの場合は、接続位置は問いません)。

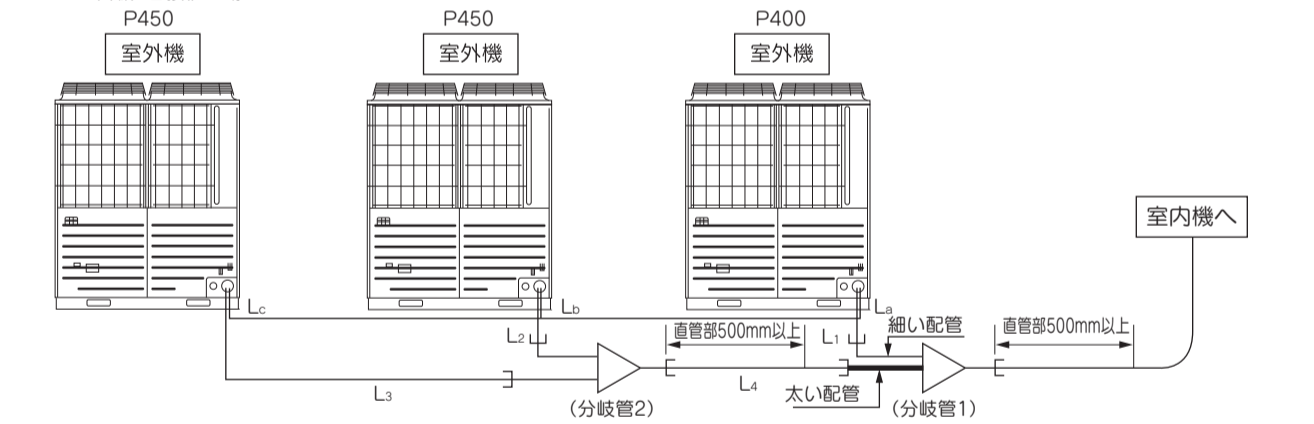
(例)下図のように、P1280(P400+P450+P450)の場合、配管接続系統で室内機に近い室外機をP400とし、室内機から遠い室外機をP450とする。

(注)3台組合せ機の配管接続系統において室内機に最も近い分岐管(分岐管1)は、2段後の配管径が異なる分岐管を使用してください。また、必ず細い配管を室外機へ接続し、太い配管を次の分岐管へ接続してください。

(注)分岐管1と室外機間の配管長は5m以内として下さい。(L1≤5m、L1+L2≤5m、L3+L4≤5m)

また室外機間の均油管長は10m以内として下さい。(L5+L6≤10m、L6+L7≤10m、L8+L9≤10m)

P1280室外機3台接続の場合



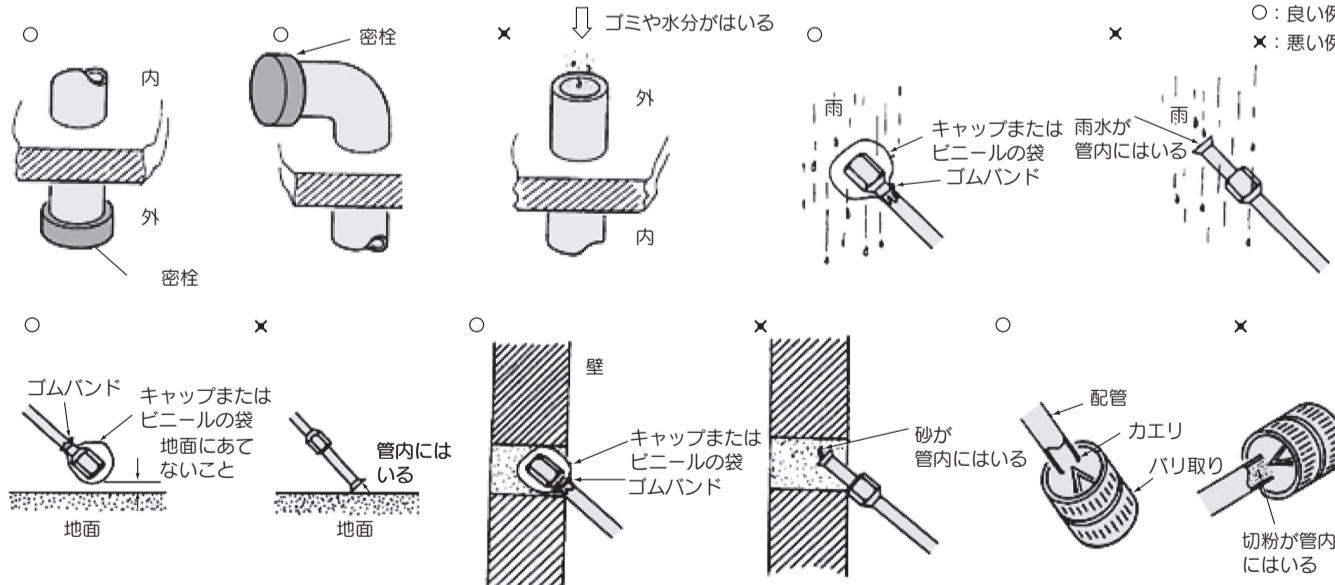
(2) 現地配管施工

重要

●施工する配管はユニット内部部品に接触しないように注意ください。

●現地配管施工は、操作弁を全開のまま行ってください。

●配管は、接続の直前まで密栓・キャップ等でカバーして水分、ゴミ、ほこり、切粉、壁材などが入らないようにしてください。



●冷媒配管はできるだけ短く、直線になるように施工する。やむを得ず曲がりを取る場合は、曲げ半径を配管外径の4倍以上にしてください。曲げ直しを何度も行わないでください。

●冷媒配管を曲げる場合はベンダを使用し、パイプが2/3 D 以下につぶれないようにしてください。

●室外機と冷媒配管との接続はフレア方式です。配管にフレアナットを取付後、フレア加工を行ってください。

①パイプ切断：パイプの長さに余裕(30～50 mm)をもって、パイプカッターを使用し、切断面を直角にしてください。

②バリ取り：切り粉が配管内に入らないように、配管を下向きにして、リーマを使用してください。

③バリの鋼くす除去：配管内部の鋼くすを、ドライバの柄など軽くたたき、ガーゼ棒を使用して除去してください。

④フレア加工：フレアナットを挿入し、フレアダイス面から配管先端までは適正な寸法でセットし(下表)、フレア内面はキズがないように真円で均一に加工してください。

R410Aのフレア加工寸法は、従来のR22、R407Cとは異なります。R410A用フレアツールを推奨しますが、出し代調整ゲージにて出し代B寸法を調整すれば、従来のツールを使用できます。

⑤フレア部の確認：下表にてA寸法を確認し、図2のような形状となっていないか確認してください。

フレアナット二面幅：H(mm)	鋼管外径	H	A	フレア管端部：A(mm)	鋼管外径	A	O	m	フレア加工の鋼管出し代：B(mm)	リジッド(クラッチ式)の場合 R410A用ツール使用時 従来ツール使用時	鋼管外径	0～0.5	0.7～1.3
	φ6.35	17			φ6.35	9.1					φ6.35		
	φ9.52	22			φ9.52	13.2					φ9.52		
	φ12.7	26			φ12.7	16.6					φ12.7		
	φ15.88	29			φ15.88	19.7					φ15.88		

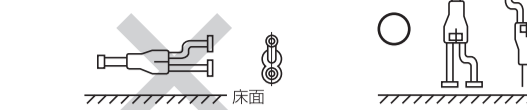
<分流通ントローラより上流の場合>

下流の合計容量	分岐管セット型式
～180未満	DIS-22-1-RG
180以上～371未満	DIS-180-1-RG
371以上～540未満	DIS-371-1-RG
540以上	DIS-540-2-RG



<分流通ントローラより下流の場合>

下流の合計容量	分岐管セット型式
～180未満	DIS-22-1G
180以上～371未満	DIS-180-1G
371以上～540未満	DIS-371-1G
540以上	DIS-540-2G



(6) 分流通ントローラ選定

- 下流に接続される室内機の合計容量により右表から選定ください。
- 各分流通ントローラに接続可能な室内機の数値は右表の通りです。
- 液管の分流通ントローラとの接続は不要です。
- 分流通ントローラより下流では吐出ガス管の接続は不要です。
- 分流通ントローラに室内機が未接続の状態でもユニットの運転はしないでください。
- 室外機に接続する分流通ントローラの台数制限は下記のとおりです。

室外機	最小接続台数
～280	2台
～560	4台
～850	6台
～1120	8台
～1500	10台

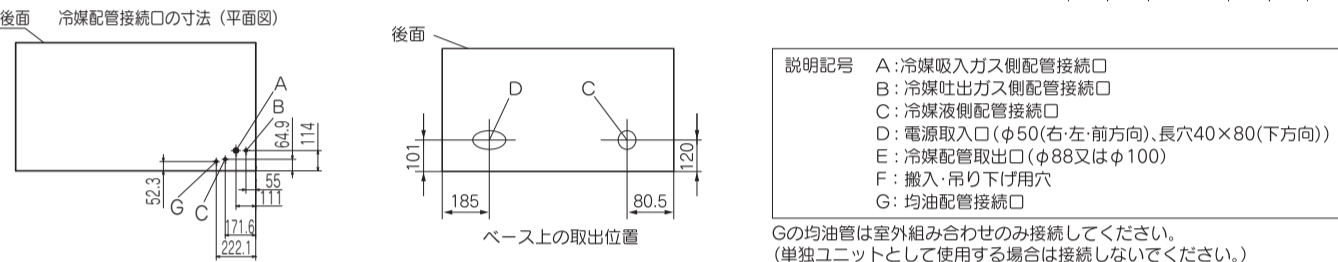
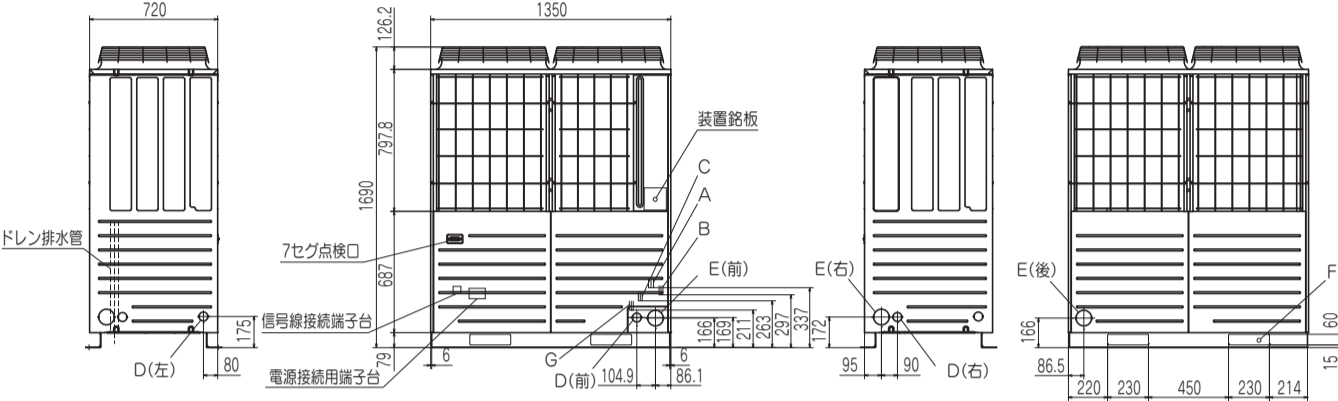
下流の合計容量	分流通ントローラ	接続可能台数
～112未満	PFD112	1～5
112以上～180未満	PFD180	1～8
180以上～280以下	PFD280	1～10

4-2. 配管工事

(1) 配管接続位置と配管取出方向

本図は容量335以下の図を示していますが、400以上もユニット高さが違うのみで配管接続位置と取出方向は同じです。

[]内の寸法が400以上のユニット寸法を示します。



- 配管の取出しは上図に示す通り前・右・下・後が可能です。
- 現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフフランク(φ88又はφ100)をニッパにて切断し切り落とさしご使用ください。
- 配管取出し部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出し口を閉鎖材(現地手配)で塞いでください。
- ドレン集中排水の際には、配線・配管の取出し口は下抜き以外をご利用ください。下抜きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。
- 現地配管は、エルボ(現地手配品)を利用して操作弁と接続してください。
- 現地配管の固定は右図のように配管固定部と室外機までの距離が1.5m以上になるようにしてください。(防振方法によっては現地配管が折れる可能性があります。)

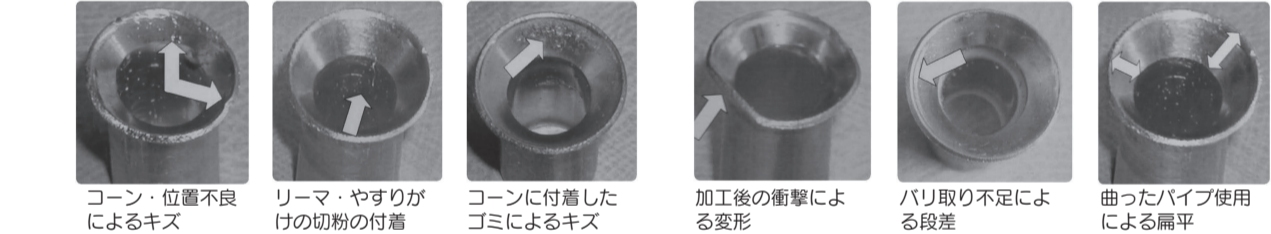
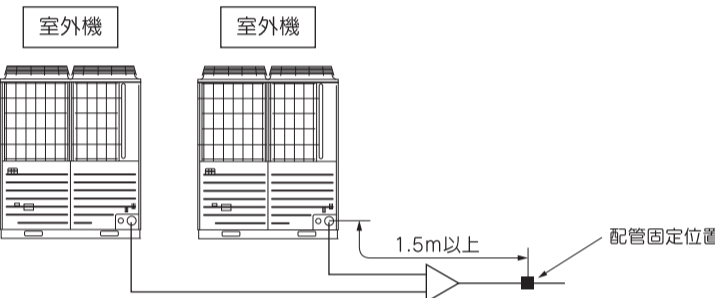


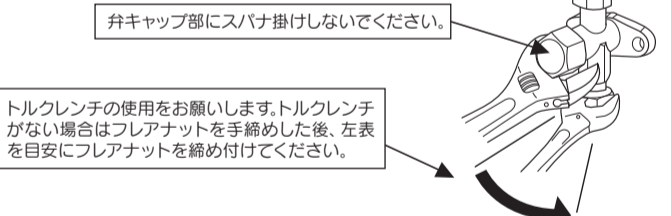
図2 フレア加工の不具合例

●フレア接続はダブルスナバでしっかり締め付けてください。フレアナットの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部潤滑摩擦力が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、フレア部に付け油は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の絵のように操作弁本体を固定し、適正な締付けトルクにて締め付けをお願いします。

操作弁サイズ (mm)	締 付トルク (N・m)	締付角度 (°)	工具の推奨長さ (mm)
φ6.35 (1/4")	14～18	45～60	150
φ9.52 (3/8")	34～42	30～45	200
φ12.7 (1/2")	49～61	30～45	250
φ15.88(5/8")	68～82	15～20	300
φ19.05(3/4")	100～120	15～20	450



ろう付け接続に関する注意点

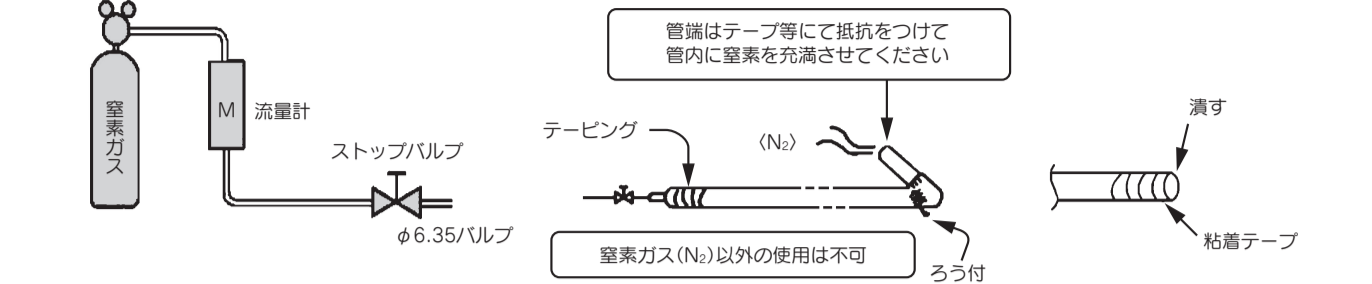
- 1) ろう付け作業は高度な技術と経験を要するため、労働安全衛生法で定めた溶接技能士又は、ガス溶接技術講習を終了した者が作業してください。
- 2) ろう付け接合面を重ね、そのすき間にろう材を溶着させるため、接合面積を十分に取り、適切なすき間を取ってください。
- 3) 銅管継手の最少はまり込み深さと、管外径と継手内径のすき間は、下表のとおりです。
- 4) ろうろうの場合のすき間は0.05 mm～0.1 mm程度が、接続強度を最も高くすることができます。

管継手の最小はまり込み深さとすき間	単位 mm	B	D	最小はまり込み深さ B	すき間 A-D
5以上8未満	6	7	8	9	0.05～0.35
8以上12未満	7	8	9	10	0.05～0.45
12以上16未満	8	9	10	11	0.05～0.55
16以上25未満	10	11	12	13	0.05～0.55
25以上35未満	12	13	14	15	0.05～0.55
35以上45未満	14	15	16	17	0.05～0.55

5) ろう材については、次の注意事項を遵守してください。

- a) 亜硫酸ガス濃度が高いなど、腐食性雰囲気では、りん銅ろうBCuPはイオウと反応しやすく、水溶性のもの化合物を作り、冷媒漏えいの原因となるので、他のろう材(例えば銀ろう)にしてください。また、ろう付け部を塗装するなどの対策が必要です。
 - b) 低温ろう(溶融温度が450℃未満のもの、いわゆる“はんだ”)は、強度が弱く冷媒漏えいを起こすおそれがあるため、使用しないでください。
 - c) 修理などで再ろう付けする場合は、同一ろう材を使用してください。ろう材の名称が同じでも号数が異なれば、再ろう付けできない場合があります。
- 6) フラックスを使用する場合は、母材の種類、形状及びろう材の種類及びろう付けの方法などによって、適切なフラックスの選定が必要となります。以下にフラックスの分類と注意事項を示します。
- a) ろう

- 9) 作業手順
- ①窒素容器に減圧弁と流量計を取り付けてください。
 - ②配管材に導く配管は細い銅管を使用し、容器側に流量計を取り付けてください。
 - ③配管材と挿入する窒素用導管のすき間は、外から空気が混入するのを防ぐためにシールしてください。
 - ④窒素ガスを流すときは、配管側の端部は行き止まりにせず、抵抗を付けて開放してください。
 - ⑤窒素ガスの流量は0.05 m³/h、又は減圧弁で0.02 MPa (0.2 kgf/cm²) 以下が適当です。
 - ⑥ろう材に適した温度でろう付けしてください。
 - ⑦操作弁と配管とのろう付けは、弁本体を濡れタオル等で冷やしながらか実施してください。
 - ⑧作業後、配管がある程度冷えるまで (手でさわれる程度、やけど注意) 窒素ガスを流したままにしてください。
 - ⑨ろう付け作業後フラックスは完全に除去してください。



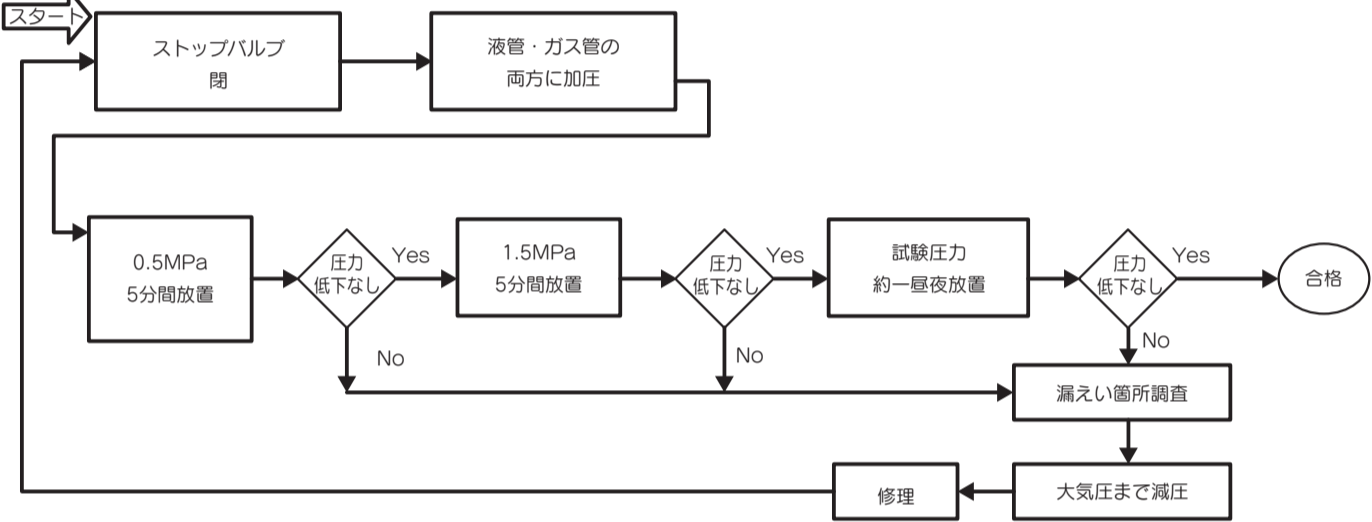
- 10) ろう付け時の注意事項
- a) 過熱防止 ろう付け加熱により母材の内外面は酸化するが、特に配管内部の加熱酸化によるスケールの生成は冷凍系統のゴミとなり、致命的な悪影響を及ぼすので、ろう付け適正温度でしかも必要最小限の加熱面積でろう付けしてください。
 - b) 過熱保護 バーナーの火災によるろう付け部に近い部品の火災による過熱損傷及び変質を防ぐため、金属板による遮蔽保護並びにウエスを水に浸して保護する、又は熱吸収材を使い過熱保護してください。
 - c) ろう付け後の冷却 加熱後すぐに水をかけると、配管が劣化する場合もあるため、水をかけないことを推奨します。
 - d) ろう付け時の固定 溶融したろう材が凝固する時、動いたり振動が伝わったりすると、ろう付け部に割れが入り漏えいの原因となります。
 - e) 酸化防止剤について ろう付け作業の効率化のため、各種酸化防止剤が流通していますが、その成分は多種多様であり、中には配管を腐食し、HFC 冷媒及び冷凍機油などに悪影響を及ぼすことが予想されるものもありますので、注意を要します。

4-3. 気密試験・真空引き

(1) 気密試験

- ①室外機本体の気密試験は弊社にて実施済ですが、配管接続後、接続配管および室内機の気密試験を室外機側の操作弁のチェックジョイントより行ってください。
尚、**操作弁は必ず閉のまゝ**にして実施してください。
- ②気密試験は、窒素ガスで機器の設計圧力まで、冷凍配管内を下記の要領で加圧して行うため、図を参考にして器具類を接続してください。
気密試験時に機器を運転しないでください。
加圧ガスには塩素系冷媒及び酸素や可燃ガスなどは絶対に使用しないでください。
操作弁は閉じたまゝです。絶対に開かないでください。
必ず液管、ガス管、均油管すべて加圧してください。
ろう付け後、配管温度が下がらないうちに加圧すると、冷却後に減圧するので注意してください。
- ③加圧要領は以下の通り一度に設計圧力までしないで、徐々に行ってください。
(ア) **0.5MPaまで加圧したところで、加圧を止めて5分間以上放置**し、圧力の低下のないことを確認ください。
(イ) **次に1.5MPaまで加圧し、再び5分間以上そのまま放置**し、圧力の低下のないことを確認ください。
(ウ) その後、設計圧力 (4.15MPa) まで昇圧し、周囲温度と圧力をメモしてください。
(エ) 規定値で**約1日放置し、圧力が低下していなければ合格**です。
この際周囲温度が1℃変化すると圧力が約0.01MPa変化しますので補正を行ってください。
(オ) (ア)～(エ)の確認で圧力低下が認められたものには漏れがあります。
溶接箇所、フレア部等に発泡試験液等を用いて漏れ箇所を発見し補修してください。補修後は再度気密試験を実施してください。
- ④気密試験後の真空引きを必ず実施ください。

ご注意
加圧しすぎると室外機に窒素が混入する恐れがあります。



9

B. 室内外機容量差分チャージ量

室内ユニットの合計接続容量が室外ユニット容量を超える場合には、冷凍量Bを計算し計量封入して下さい。
※室内ユニットの合計接続容量が室外ユニット容量を超えない場合は、B=0 (kg) です。
B= (室内ユニットの合計接続容量)-(室外ユニット容量) × 0.01
(例) 室外ユニットがFDC400に対し、室内ユニットがFDT140 × 3台の場合。
B= (140 × 3) - (400) × 0.01 = 0.2 (kg)

C. 基準追加冷凍量

容量別下表より基準追加冷凍量Cを選んでください。

容量	C(kg)	容量	C(kg)	容量	C(kg)
224	0.0	670	0.0	1120	6.4
280	0.0	730	3.2	1180	9.6
335	0.0	775	6.4	1220	9.6
400	3.2	850	6.4	1280	9.6
450	3.2	900	6.4	1360	9.6
500	3.2	950	6.4	1400	9.6
560	0.0	1000	6.4	1450	9.6
615	0.0	1060	3.2	1500	9.6

●重要

現場の追加封入量上記A+B+C下表の値を超える場合には、冷凍系統を分けて下さい。

室外機	追加封入量(kg)
335～670	50
730～1500	100

●本機はR410Aのため下記の点にご注意ください。

- ・異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工具を使い分けてください。特にゲージマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒 (R22、R407C等) と共用しないでください。
- ・冷媒種類はポンペ上部に色表示 (R410Aは桃色) してありますので、誤り無きよう十分確認してください。
- ・チャージシリンダは絶対使用しないでください。R410Aをシリンダに移し換える際に冷媒組成が変化する恐れがあります。
- ・冷媒は液相で封入する必要がありますので、ポンペを倒立させて充てんするか、サイフォン管付の冷媒ポンペから充てんしてください。

●お願い

配管長から算出した冷凍量をサービスパネル裏面の冷凍量記入銘板に記入してください。

冷媒量記入銘板

●必ず「規定量の冷媒 (R410A)」を封入して下さい。
冷媒不足の状態は長時間運転されますと、能力不足あるいは圧縮機故障の原因となります。
銘板説明書および下記内容を銘板の上、必ず計量封入して下さい。
(特に記載しながら冷媒封入する場合は必ず30分以内に完了して下さい。)

●冷媒の追加封入
次のサービス時に必要となりますので、必ず銘板欄に必要な事項を記入して下さい。

A. 冷凍配管分チャージ量
現場液管サイズと長さより冷凍量Aを計算し、計量封入して下さい。

B. 室内外機容量差分チャージ量
室内ユニットの合計接続容量が室外ユニット容量を超える場合には、冷凍量Bを計算し計量封入して下さい。
※室内ユニットの合計接続容量が室外ユニット容量を超えない場合は、B=0 (kg) です。
B= { (室内ユニットの合計接続容量) - (室外ユニット容量) } × 0.01
(例) 室外ユニットがFDC400に対し、室内ユニットがFDT140 × 3台の場合。
B= { (140 × 3) - (400) } × 0.01 = 0.2 (kg)

C. 基準追加冷凍量
容量別下表より基準追加冷凍量Cを選んで下さい。

容量	C(kg)	容量	C(kg)	容量	C(kg)
224	0.0	670	0.0	1120	6.4
280	0.0	730	3.2	1180	9.6
335	0.0	775	6.4	1220	9.6
400	3.2	850	6.4	1280	9.6
450	3.2	900	6.4	1360	9.6
500	3.2	950	6.4	1400	9.6
560	0.0	1000	6.4	1450	9.6
615	0.0	1060	3.2	1500	9.6

A kg × 1.4 + B kg + C kg = kg

出庫時 kg + 追加封入量 kg = 全冷凍量 kg

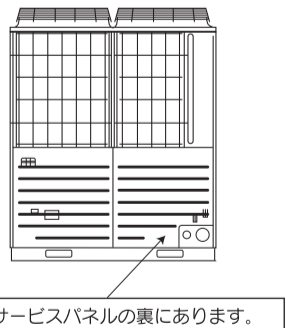
PSA011M211AV

D. 出荷時冷凍量
本ユニットには、工場出荷時より冷凍量Dが封入されています。
(出荷時冷凍量D)

容量	D(kg)	容量	D(kg)	容量	D(kg)
224	11.0	670	22.0	1120	34.0
280	11.0	730	22.5	1180	34.5
335	11.0	775	23.0	1220	34.5
400	11.5	850	23.0	1280	34.5
450	11.5	900	23.0	1360	34.5
500	11.5	950	23.0	1400	34.5
560	22.0	1000	23.0	1450	34.5
615	22.0	1060	33.5	1500	34.5

冷凍量D22.22の合計長さ m × 0.37 kg/m = kg
+ φ19.05の合計長さ m × 0.26 kg/m = kg
+ φ15.88の合計長さ m × 0.18 kg/m = kg
+ φ12.7の合計長さ m × 0.12 kg/m = kg
+ φ9.52の合計長さ m × 0.059kg/m = kg
+ φ6.35の合計長さ m × 0.022kg/m = kg
合計 kg・・・A

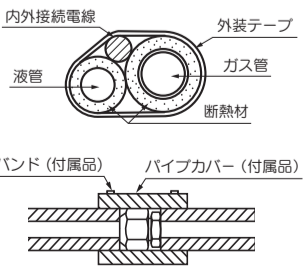
ご注意
機器の保守・サービス時に必要です。
必ずご記入ください。



冷媒量記入銘板

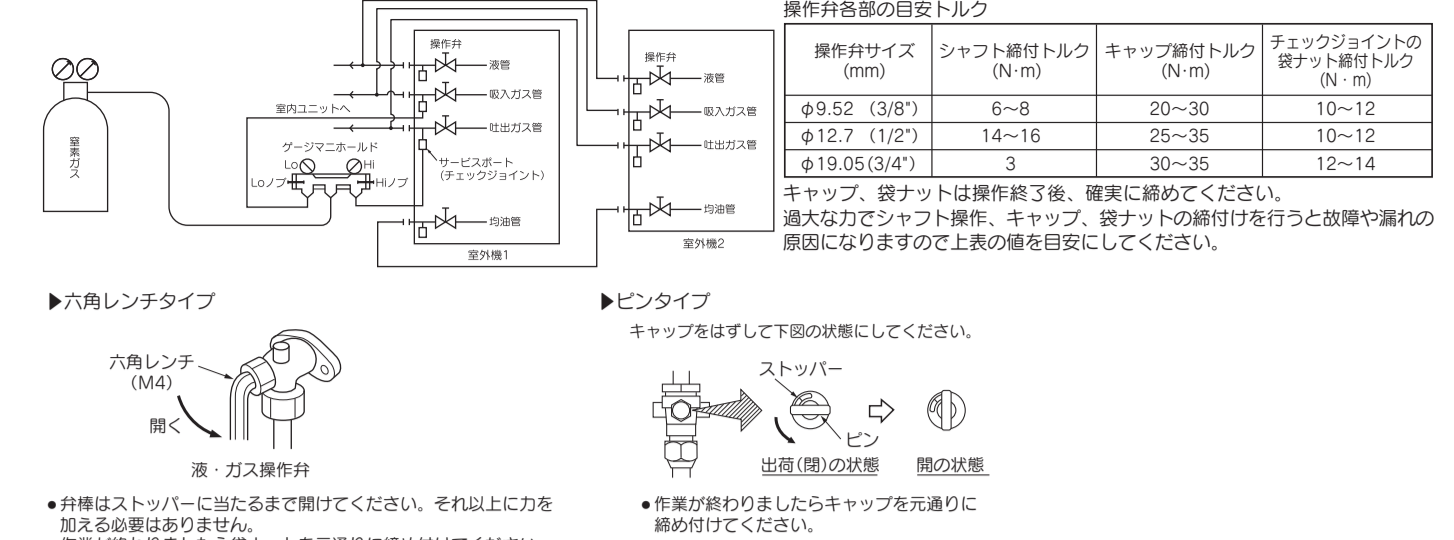
4-5. 断熱・防露

- ①冷凍配管 (ガス管、液管共) の防露断熱工事を行ってください。
断熱工事は、気密試験の時に漏えいを検出可能なように、気密試験実施後に行ってください。
埋設配管途中に配管継手がある場合は、接続箇所の点検が可能となるように点検口などを設けてください。
配管接続部が天井内にある場合にも必ず点検口を設けてください。
防露断熱工事に不備があると、水漏れまたは露たれが発生し、家財等を濡らす原因となることがあります。
- ②断熱材は120℃以上の耐熱性があるものをご使用ください。耐熱性が低いと断熱不良や電線劣化の原因となります。
(ア)ガス管は冷凍運転時、配管に結露したものがドレン水となり水漏れ事故となることを防ぎ、また、暖房時には吐出ガスが流れ、管表面温度が高温になるため、人に接触すると火傷などの危険性があるため、必ず断熱してください。
(イ)室内機のフレア接続部分は断熱材 (パイプカバー) で断熱してください。(ガス管、液管共に断熱してください。)
(ウ)断熱はガス側、液側配管共両方に行ってください。その断熱材と配管を密着させて隙間ができないように接続線と共に外装テープで巻いてください。
(エ)本エアコンはJIS露付条件で試験を行い不具合のないことを確認しておりますが、相対湿度70%を超える天井内等では、ガス側液側配管共に厚さ20mm以上の断熱が必要となります。
周囲の露点温度が28℃以上、または相対湿度80%以上となる場合はさらに10～20mmの断熱材を取付けてください。

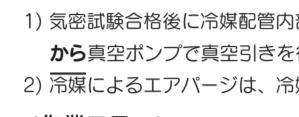


PS0012D043C

11



▶六角レンチタイプ

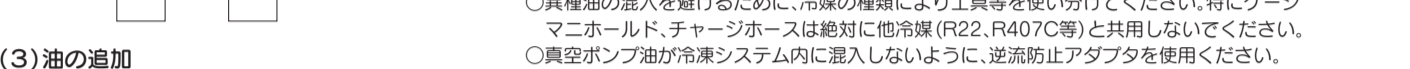


- 弁棒はストッパーに当たるまで開けてください。それ以上に力を加える必要はありません。
- 作業が完了したら袋ナットを元通りに締め付けてください。

(2) 真空引き

- 1) 気密試験合格後に冷凍配管内部の空気、又は窒素ガスを排除するため、**吸入ガス側操作弁チェックジョイントと吐出ガス側操作弁チェックジョイントの両側から真空ポンプで真空引き**を行ってください。**均油管も必ず真空引き**をしてください。(均油管操作弁チェックジョイントを用い単独に行ってください。)
- 2) 冷凍によるエアバージは、冷媒の放出を伴うため、禁止されています。

<作業フロー>



真空ゲージの針が上昇した場合は系統内に水分が残っているか、漏れ箇所があります。漏れ箇所をチェックし、修正後再度真空引きをしてください。

本機はR410Aのため下記の点にご注意ください。

- 異種油の混入を避けるために、冷媒の種類により工具を使い分けてください。特にゲージマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒 (R22、R407C等) と共用しないでください。
- 真空ポンプ油が冷凍システム内に混入しないように、逆流防止アダプタを使用してください。

(3) 油の追加

配管総長が510mを超える場合、真空引き後にガス操作弁のチェックジョイントから、冷凍機油M-MA32Rを1000cc追加して下さい。

(4) 操作弁の操作方法

開閉の方法
○キャップをはずし、ガス管側は右側の“開”状態になるよう回してください。

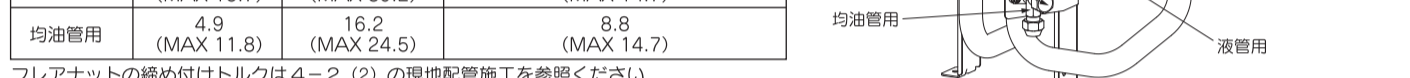
○液管側と均油管側は、6角レンチ (JISB4648) でシャフトがとまるまで回してください。

過大な力を加えて開くと弁本体が破壊するおそれがあります。必ず専用工具をご使用ください。

○キャップを確実に締付けてください。

	シャフト (弁本体)	キャップ (ふた)	フクロナット (チェックジョイント部)
吸入ガス管用 吐出ガス管用	7以下	30以下	13
液管用	7.85 (MAX 15.7)	29.4 (MAX 39.2)	8.8 (MAX 14.7)
均油管用	4.9 (MAX 11.8)	16.2 (MAX 24.5)	8.8 (MAX 14.7)

フレアナットの締め付けトルクは4-2 (2) の現地配管施工を参照ください。



4-4. 冷媒の追加封入

- 液の状態**で冷媒を追加封入してください。
- 冷媒の封入は必ずはかり**を使用して計算封入してください。
室外機停止状態で、全て封入できない場合は試運転モードで運転し封入してください。(試運転方法は8項を参照ください。)
冷媒不足の状態は長時間運転されますと圧縮機の故障の原因となります。(特に運転しながら冷媒封入する場合は必ず30分以内に完了して下さい。)
追加冷媒量は下記計算式に従い決定し、その追加した冷媒量をサービスパネル表面の冷凍量記入銘板に記入して下さい。
- 液管サイズと長さおよび室内機の容量差により追加封入して下さい。**小数点2ケタ目を四捨五入して0.1kg単位で追加冷媒量を決定して下さい。
追加封入量(kg)=A・冷凍配管分チャージ量(kg)+B・室内外機容量差分チャージ量(kg)+C・基準追加冷媒量(kg)

A. 冷凍配管分チャージ量
現場液管サイズと長さより冷媒量Aを計算し、計量封入して下さい。冷暖切換マルチ (LX) と冷暖フリーマルチ (LXR) では追加封入量の算出式が異なりますので注意してください。

A. 冷凍配管分チャージ量(kg)=(L1 × 0.37)+(L2 × 0.26)+(L3 × 0.18)+(L4 × 0.12)+(L5 × 0.059)+(L6 × 0.022) × 1.4

L1: φ22.22の合計長さ(m)、L2: φ19.05の合計長さ(m)、L3: φ15.88の合計長さ(m)、L4: φ12.7の合計長さ(m)、L5: φ9.52の合計長さ(m)、L6: φ6.35の合計長さ(m)。

冷媒配管サイズ φ22.22 φ19.05 φ15.88 φ12.7 φ9.52 φ6.35 備考

追加封入量(kg/m) 0.37 0.26 0.18 0.12 0.059 0.022

5. ドレン配管工事

- 室外機からのドレン水が問題になる場所では、別売品のドレンエルボ、ドレングロメットを利用してドレン配管を施工してください。

6. 電気配線

電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。

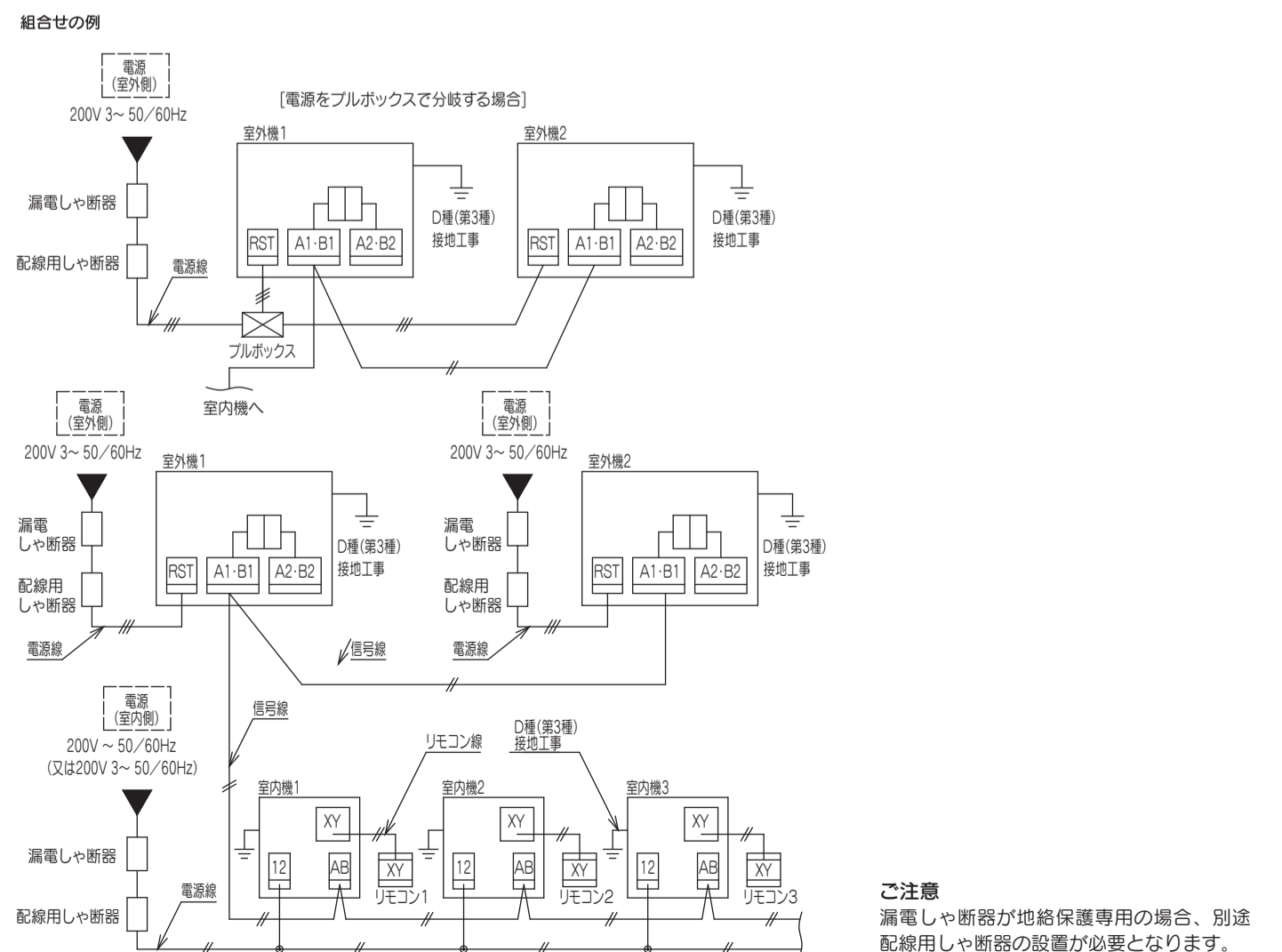
電気工事は「電気設備に関する技術基準」及び「内線規程 JEAC8001(最新版)」に従い施工してください。

- △**漏電しゃ断器を設置ください。**感電、火災事故防止のため漏電しゃ断器の設置が義務付けられています。
(本機はイオンバース装電を有するので漏電しゃ断器の誤動作防止のため**衝撃波不動作形**を使用してください。)

お願い

- (ア)電線は銅以外のものを使用しないでください。
- (イ)電線は、**室外機・室内機それぞれ別電源**です。
- (ウ)電気ヒータ (別売品) なしにて記載してあります。別売の電気ヒータを相込む場合は、電源仕様、配線仕様及び配線個数が異なりますので、ご注意ください。
- (エ)同一系統内の室内機の電源は、**必ず全て同時ON・OFF**になるようにしてください。
- (オ)電源線のアース工事を必ず行ってください。アース線はガス管、水道管、電話や他のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は感電や誤動作の原因になることがあります。
- (カ)衝撃波不動作形漏電しゃ断器の取付けが必要です。漏電しゃ断器が取付けられていないと、感電や火災の原因になることがあります。電源は工事が完了まで入れないでください。サービスは電源を切ってから行ってください。
- (キ)力率改善用進相コンデンサは絶対に取付けないでください。(力率改善されないだけでなく、異常過熱事故を起こします。)
- (ク)電源配線は電線管を使用してください。
- (ク)屋外では弱電 (リモコン、信号線) と他の強電配線は同一場所を通さないように配線してください。電気ノイズの影響を受け誤動作や故障の原因になります。
- (コ)電源配線及び信号線は必ず電源端子台に接続しユニット内の配線固定用クランプで固定ください。
- (サ)配線は配管などと接触しないように固定してください。
- (シ)配線接続後、電装品箱内の各電気部品のコネクタ抜けや端子外れがないことを確認し、ふたを確実に取付けてください。
(取付け不良等により水が混入すると誤動作や故障の原因になります。)
- (ス)変則V結線 (三相200Vと単相100Vの両方を作る結線) となっている変圧器には接続しないでください。もし変則V結線となっている変圧器に多くのエアコンを設置すると本機から発生する高周波の影響により100Vの電子機器が誤動作または故障するおそれがあります。

6-1. 配線系統図



ご注意
漏電しゃ断器が地絡保護専用の場合、別途配線用しゃ断器の設置が必要となります。

12

6－2．電源接続要領

- (1)配線取出し方法
- 4－2の(1)に示す図の通り配線の取出しは前・右・下・後が可能です。
 - 現地配線接続時、外板の貫通穴のハープロフランクをニッパで切断し切り落とさしご使用ください。
 - ドレン集中排水の際には、配線・配管の取出口は下抜き以外をご利用ください。下抜きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。
- (2)電源配線接続時の注意
- アース線は電源線接続前に接続してください。また、端子台にアース線を接続する時は、アース線を電源線より長くし、アース線にテンションがかからないようにしてください。
 - 電源は工事が完了するまで入れないでください。サービスは電源を切ってから行ってください。
 - アース工事はD種（第3種）接地工事に基づき実施してください。
 - 電源配線は必ず電源端子台に接続し、操作弁フックにあるタイラップでクランプしてください。
 - 電源端子台への接続は、丸型圧着端子を使用ください。1個の端子に2本接続する場合は、圧着端子が背中合わせになるよう配線ください。また、その場合線径の細い配線が上になるように配線してください。
 - 配線は指定の電線を使い確実に接続し、端子部に外力が加わらないように固定ください。
 - 端子のねじ締め付けには、適正なドライバーを使用してください。端子ねじを締めすぎるとねじを破損する可能性があります。
 - 電源工事終了後、電装品箱内の各電気部品品のコネクタ抜けや端子外れがないことを確認ください。
- (3)室外機電源仕様：三相200V 3～50/60Hz電源

機 種	電源用 合計長さ (mm²)	配線こう長 (m)	漏電しや断器 (地絡、過負荷、短絡保護兼用)	アース線 太さ (mm²)	機 種	電源用 合計長さ (mm²)	配線こう長 (m)	漏電しや断器 (地絡、過負荷、短絡保護兼用)	アース線 太さ (mm²)
224	14	53	40A 30mA 0.1sec以下	3.5	M8*	900	100	85	175A 200mA 0.1sec以下
280	14	42	50A 100mA 0.1sec以下	3.5	M8*	950	100	83	175A 200mA 0.1sec以下
335	22	60	50A 100mA 0.1sec以下	3.5	M8*	1000	100	80	175A 200mA 0.1sec以下
400	22	49	60A 100mA 0.1sec以下	5.5	M8*	1060	100	92	175A 200mA 0.1sec以下
450	38	65	100A 100mA 0.1sec以下	5.5	M8*	1120	100	83	175A 200mA 0.1sec以下
500	38	61	100A 100mA 0.1sec以下	5.5	M8*	1180	150	113	175A 200mA 0.1sec以下
560	38	65	100A 100mA 0.1sec以下	5.5	M6	1220	150	102	200A 200mA 0.1sec以下
615	38	62	100A 100mA 0.1sec以下	5.5	M6	1280	200	124	225A 200mA 0.1sec以下
670	38	59	100A 100mA 0.1sec以下	5.5	M6	1360	200	114	250A 200mA 0.1sec以下
730	60	78	100A 100mA 0.1sec以下	5.5	M6	1400	200	111	250A 200mA 0.1sec以下
775	60	68	125A 200mA 0.1sec以下	8	M6	1450	200	109	250A 200mA 0.1sec以下
850	100	97	150A 200mA 0.1sec以下	8	M6	1500	200	107	250A 200mA 0.1sec以下

お願い

(ア) 配線要領は内線規程（JEAC8001）に基づいて決められています。

(イ) 表中のこう長・配線太さは、電圧降下を2%以内とした場合のこう長・配線太さを示します。

配線こう長が左表の値を超える場合は、内線規程に倣い配線太さを見直してください。

(ウ) 漏電しや断器が地絡保護専用の場合、別途配線用しや断器の設置が必要となります。配線用しや断器の選定については技術資料を参照いただくか、代理店又は弊社へお問い合わせください。

(4)室内機電源仕様：単相200V～又は三相200V 3～50/60Hz電源

室内機 合計長さ (mm²)	配線太さ (mm²)	配線こう長 (m)	漏電用しや断器 (地絡、過負荷、短絡保護兼用)
7A以下	2	21	20A 30mA 0.1sec以下
11A以下	3.5	21	20A 30mA 0.1sec以下
12A以下	5.5	33	20A 30mA 0.1sec以下
16A以下	5.5	24	30A 30mA 0.1sec以下

6－3．信号線接続要領

本機では旧通信方式であるスーパーリンク（以下「IBSL」と表記します）とスーパーリンクⅡ（以下「SLⅡ」と表記します）の2通りの通信方式が選択できます。それぞれ以下の特徴、制限がありますので接続する室内機や集中制御に合わせて選択してください。

SLⅡ未対応の室外機、室内機、集中制御機器が接続されているネットワークに信号線を接続する場合は冷媒系統が別であってもIBSLでの通信を選択してください。

通信方式	スーパーリンク（IBSL）	スーパーリンクⅡ（SLⅡ）
室外機の設定（SW5-5）	ON	OFF（出荷時設定）
同一ネットワーク内の室内機台数	最大48台	最大128台
同一ネットワーク内の室外機台数	最大48台	最大32台
信号線（合計長さ）	1000mまで	シールド線以外を使用する場合は2000mまで シールド線（MVVS）0.75mm²を使用する場合は1500mまで シールド線（MVVS）1.25mm²を使用する場合は1000mまで
（最長長さ）	1000mまで	1000mまで
ネットワークに接続可能な機器	SLⅡ未対応機（FDOP○○○2LXシリーズ） SLⅡ対応機（FDOP○○○3LXシリーズ） （FDOP○○○4LXシリーズ） 混在も可能（同一冷媒系統内での混在は不可）	SLⅡ対応機（FDOP○○○3LXシリーズ） （FDOP○○○4LXシリーズ）

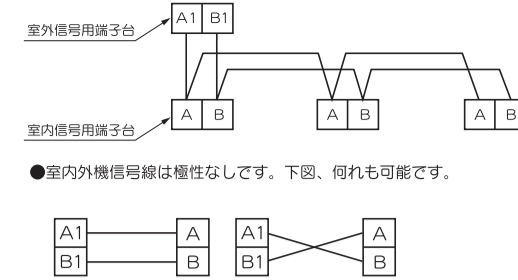
注：FDTP224.280形は室内機1台につき通信上は2台分として台数計算してください。

- 信号線はDC5Vですので絶対に200Vの配線を接続しないでください。** 基板上の保護ヒューズが動作します。
- ①信号線に200Vが印加されないようになっていることを確認してください。
- ②電源投入前に信号線端子台抵抗をご確認ください。信号線端子台抵抗が100Ω以下の場合は、電源線を信号線端子台に接続している可能性があります。
- 3型以降のユニットだけが接続されている場合
- 抵抗値の目安＝5100／接続台数**
- 2型以前のユニットだけが接続されている場合
- 抵抗値の目安＝9200／接続台数**
- 3型以降と2型以前のユニットが混在して接続されている場合
- 抵抗値の目安＝46000／（（2型以前の接続台数×5）＋（3型以降の接続台数×9））です。**
- 接続台数には室内機・室外機・SL機器を含みます。
- 抵抗値が100Ω以下になる場合は同一ネットワーク上の室内機台数を減らすため、一時的に信号線を外して複数のネットワークに分離し、個別に確認してください。

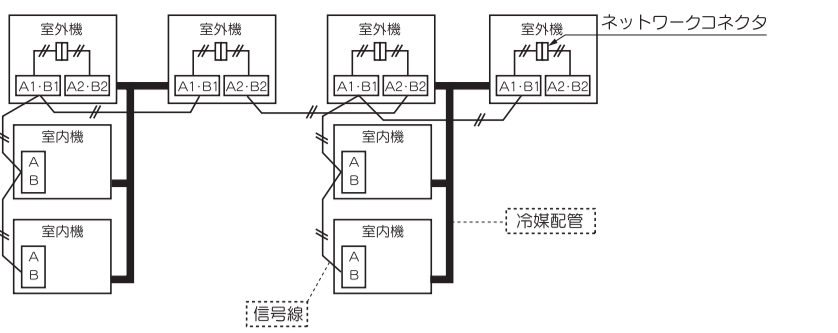
室内・室外信号線

- A1・B1に室内・室外機間信号線をつないでください。
- A2・B2に室外機間信号線をつないでください。

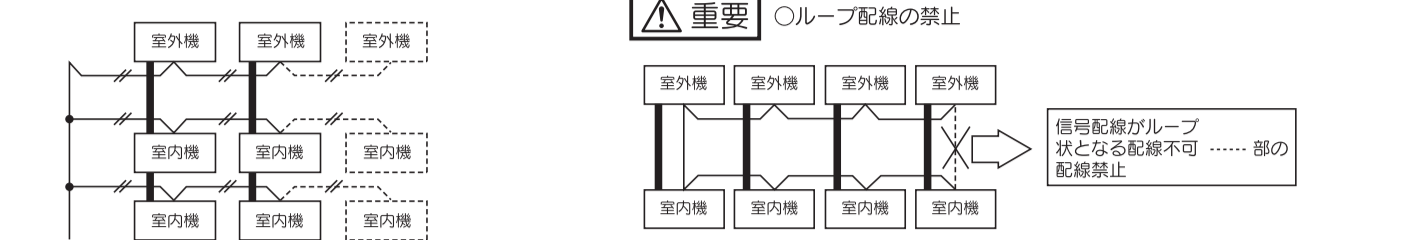
(1) 室外機 1 台の場合



(2) 室外機複数台の場合

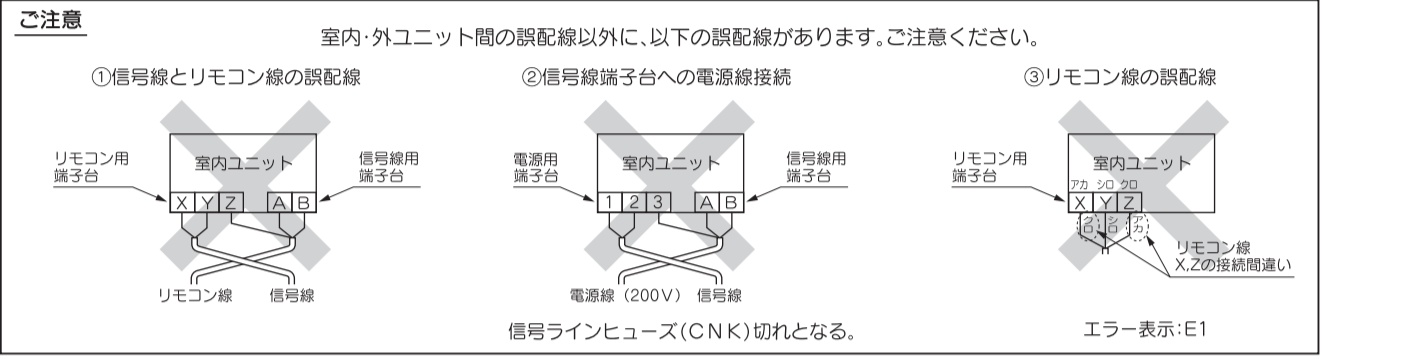


(3) 下図のように信号線を接続する方法も可能です。



- リモートコントローラ配線仕様
- リモコン線は0.3mm²×2心（3LXシリーズ室内機）、3心（2LXシリーズ室内機）が標準です。延長は600mまで可能です。100m以上の場合は、右表に示す配線を使用してください。
- 電源端子台への結線は、M8 用の右図圧着端子を使用してください。
- 信号端子台への結線は、M3.5用の右図圧着端子を使用してください。

長さ (m)	配 線 太 さ
100～200以内	0.5mm²
～300以内	0.75mm²
～400以内	1.25mm²
～600以内	2.0mm²



7．コントローラーの設定

7－1．ユニットアドレスの設定

本制御システムでは、複数の空調機の室外機と室内機及びリモコンからなるコントローラを、各コントローラ内のマイコンにより通信制御するものです。アドレスの設定は室外機と室内機の両方とも行ってください。室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分を目安にしてください。

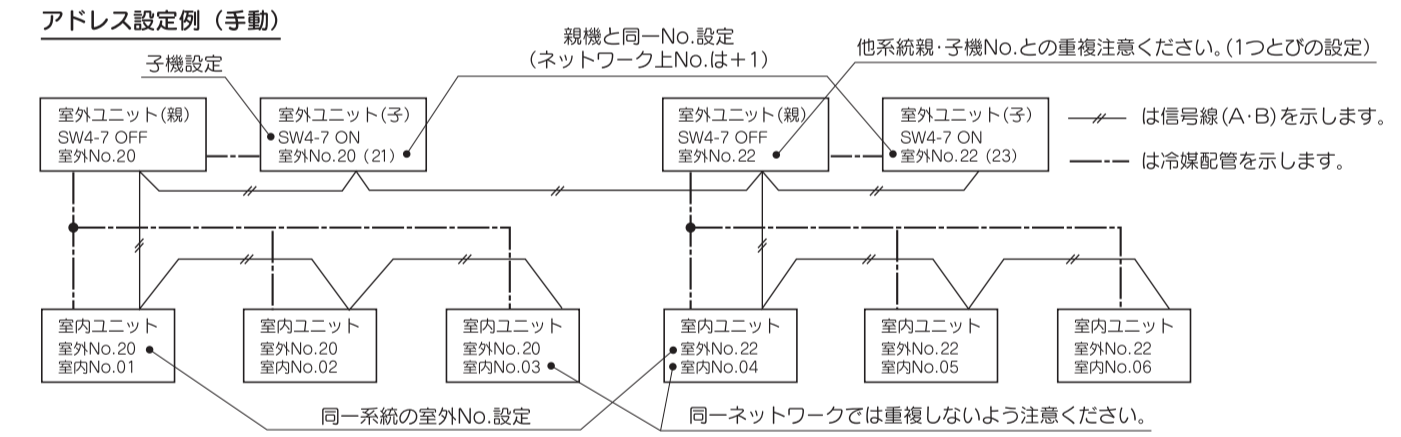
本機では旧通信方式であるスーパーリンク（IBSL）とスーパーリンクⅡ（SLⅡ）の2通りの通信方式が選択できます。それぞれ6-3の表の特徴、制限がありますので接続する室内機や集中制御に合わせて選択してください。

SLⅡ未対応の室外機、室内機、集中制御機器が接続されているネットワークに信号線を接続する場合は冷媒系統が別であってもIBSLでの通信を選択してください。

アドレス設定後通信ができるようになったら室外機7セグで通信方式を確認してください。

- アドレス設定の種類**
- アドレス設定方法は下記の方法があります。自動アドレスは従来と手法が異なります。本説明書をよく読んでご使用願います。
- | 通信方法 | SLⅡ | IBSL | | | |
|--------------------------------------|--|------|----|----|----|
| アドレス方法 | 自動 | 手動 | 自動 | 手動 | |
| 複数の冷媒系統を信号線で接続する場合
（例えば集中制御を行う場合） | ケース1 複数の冷媒系統を接続する信号線が室外機間で接続されている場合
（ネットワークコネクタを外した際に各冷媒系統が1系統ずつに分離される状態） | OK※1 | OK | × | OK |
| | ケース2 複数の冷媒系統を接続する信号線が室内機間で接続されている場合 | × | OK | × | OK |
| 冷媒系統が1系統の場合（信号線が冷媒系統をまたがない場合） | OK | OK | OK | OK | |
- ※1 A1・B1に室外機間信号線を接続しないでください。アドレス設定ができない場合があります。（ケース3）
- A2・B2に室内機間信号線を接続しないでください。アドレス設定ができない場合があります。（ケース4）
- ※2（ケース2）の場合自動アドレス設定ができません。手動にてアドレス設定を行ってください。

- ③室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分間以上を目安にしてください。
- ※同一ネットワーク内にSLⅡ未対応機がある場合、SW5-5をON にして通信方式をIBSLとしてください。IBSLの場合、ネットワーク最大接続室内機台数は48台です。

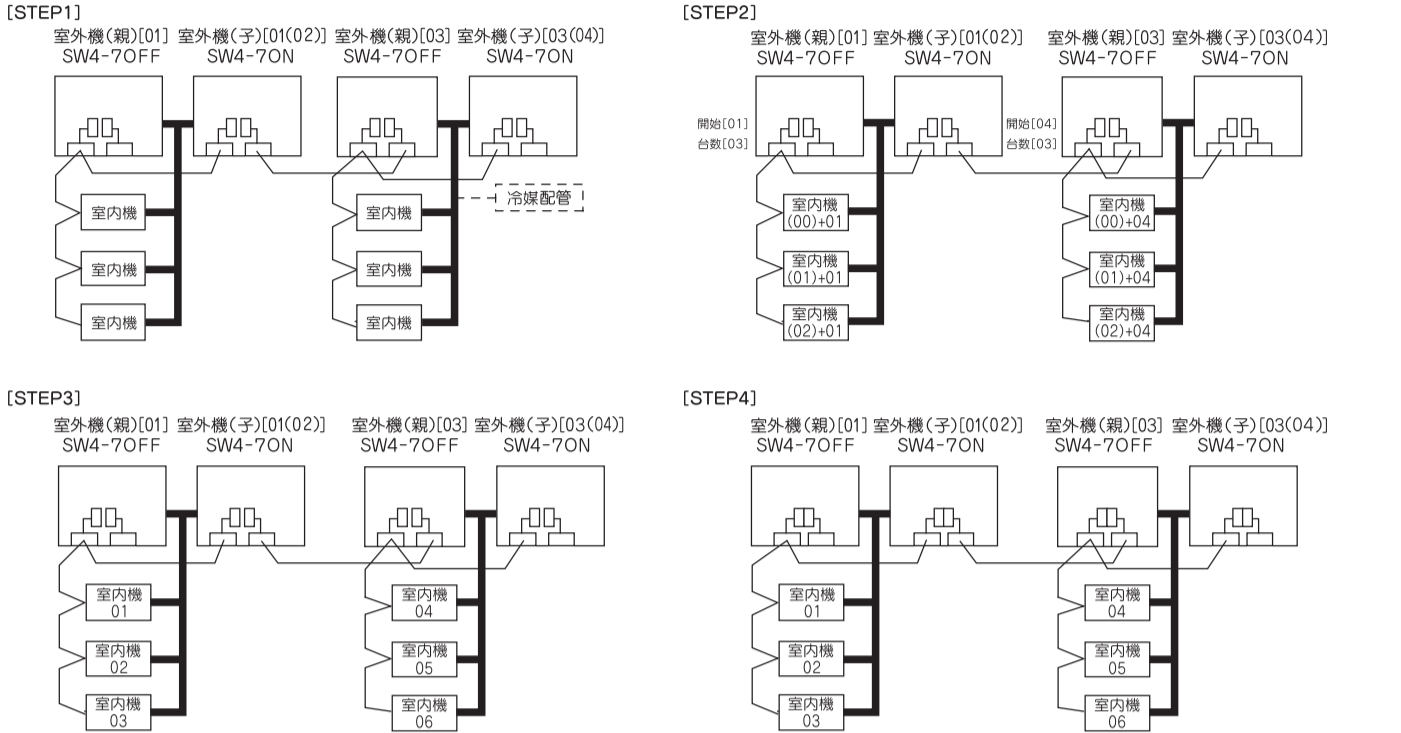


- 自動アドレス設定 SLⅡ/IBSL共通 [] 内はIBSL用の数値
- SLⅡでは従来の冷媒系統が1系統の場合の自動アドレス設定に加え、複数の冷媒系統を信号線で接続する場合でも室内機の自動アドレス設定が可能です。ただし、配線方法等、条件がありますので本説明書をよく読んで実施願います。
- (1)冷媒系統が1系統の場合 [SLⅡ/IBSL共通] 内はIBSL用の数値
- ①室外機のアドレス設定 電源投入前に次のとおり設定してください。
- 室外No.スイッチが出荷時の49に設定されていることを確認してください。**
- 組合せの親機の場合も同様に**、室外No.用のロータリスイッチを**出荷時の49**の設定を確認してください。
- 組合せの子機の場合も同様に**、室外No.用のロータリスイッチを**出荷時の49**の設定を確認してください。
- さらに**2台組合せ時は子機のディップスイッチSW4-7をONに設定し、3台組合せ時は子機1のディップスイッチSW4-7をONおよび子機2のディップスイッチ4-8をONに設定**してください。（親機と子機の室外No.を同じ設定にしてください。）
- | 室外機 | SW1 | SW2 | SW4-7 | ネットワーク上のアドレス |
|-----|-----|-----|-------|--------------|
| 親機 | 4 | 9 | OFF | 49 |
| 子機1 | 4 | 9 | ON | 00 |
| 子機2 | 4 | 9 | OFF | 01 |
- ご注意 子機未設定の場合は圧縮機故障の原因となります。
- ②室内機のアドレス設定 電源投入前に次のとおり設定してください。
- 室内No.スイッチが出荷時の000 [IBSLの場合49]に設定されていることを確認してください。**
- 室外No.スイッチが出荷時の49に設定されていることを確認してください。**
- ③室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分間以上を目安にしてください。（2）の手順のように7セグで設定を行う必要はありません。
- ④室外機「組合せの場合：親機」の7セグにて表示される室内機台数と実際に冷媒配管が接続されている室内機の台数が一致するか確認してください。

- (2)冷媒系統が複数の場合 [SLⅡのみ可能、IBSLの場合、手動アドレス設定してください]
- （冷媒系統を接続する信号線が室外機間で接続されており、通信方式としてSLⅡを選択した場合のみ実施できます。）
- 操作手順**（各室外機で実施願います）
- [STEP1]（電源投入前実施内容）
- ①室外機のアドレス設定 電源投入前に次のとおり設定してください。
- 室外No.スイッチを00～31の範囲で設定**してください。ネットワーク上の他の室外No.と重複しないように設定してください。
- 組合せの親機の場合も同様に**、室外No.用のロータリスイッチを**00～31の範囲**で設定してください。
- 組合せの子機の場合は**、室外No.用のロータリスイッチを**組合せの親機と同じ室外No.**に設定し、さらに**子機用のディップスイッチSW4-7をONに設定**してください。（親機と子機の室外No.を同じ設定にしてください。）
- ②室内機のアドレス設定 電源投入前に次のとおり設定してください。
- 室内No.スイッチが出荷時の000に設定されていることを確認してください。**
- 室外No.スイッチが出荷時の49に設定されていることを確認してください。**
- 各室外機の**ネットワークコネクタ（白色2P）**を外してください。（接続したまま電源投入されると誤設定となります。）
- [STEP2]（電源投入と自動アドレス設定）
- ④室外機室内機電源投入 室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分間以上を目安にしてください。
- ⑤各室外機（組合せの場合：親機）の7セグのP31で「1」を選択して確定をし、自動アドレス開始を入力してください。
- ⑥開始アドレスと室内機接続台数の入力 各室外機の7セグのP32で室内機の開始アドレスを入力してください。
- ⑦開始アドレスを設定すると接続台数入力表示に戻ります。
- 各室外機（組合せの場合：親機）の7セグで室内機接続台数を入力してください。各室外機ごとの接続台数（組合せの場合：同一冷媒系統の接続台数）を入力願います。（7セグのP33で入力できます） 接続室内機が入力されたら7セグ表示は「AUX」となり点滅します。
- [STEP3]（自動アドレス完了確認）
- ⑧室内機アドレス決定 室内機アドレスが確定したら7セグが「AUE」となり点滅します。このときエラーがあれば「A○○」表示となります。各室外機（組合せの場合：親機）の表示を確認願います。室内機接続台数により確定するまで**10分程度**かかる場合があります。

- [STEP4] (ネットワーク確定設定)
- ⑨ネットワーク接続
各室外機（組合せの場合:親機）ごとに「AUE」表示を確認したら③で外した**ネットワークコネクタを接続**してください。
 - ⑩ネットワーク極性設定
ネットワークコネクタの接続を確認後、ネットワークの極性設定のため、**任意の室外機1台のみ(組合せの場合:親機1台のみ)**より7セグのP34で“1”を選択して確定をしてください。
 - ⑪設定完了確認
ネットワークが確定したら各室外機（組合せの場合：親機）の7セグに「End」を表示します。「End」表示は7セグ操作もしくは3分経過後消灯します。

	STEP1	STEP2	STEP3	STEP4
内電源	②OFF	④ON	—	—
外電源	①OFF	④ON	—	—
室内機 (室内/室外 No.SW)	②内000 /外 49 (出荷時)	—	—	—
室外機(室外 No.SW)	①01.03 (例)	—	—	—
ネットワークコネクタ	③外す	—	—	⑨接続(各室外機)
自動アドレス開始設定	—	⑤各室外で開始設定セット	—	—
開始アドレス設定	—	⑥外01: f01 (例) 外03: f04 (例)	—	—
接続台数設定	—	⑦外01: f03 (例) 外03: f03 (例)	—	—
極性設定	—	—	—	⑩任意室外機から7セグP34セット
7セグ表示 (組合せの場合：親機)	—	⑦ [AUX] (点滅)	⑥ [AUE] (点滅) エラー時は[AOO]表示	⑪ [End]



- ・同一冷媒系統内のアドレス設定は室外機の認識した順番に設定されますので、必ずしも図のように室外機から近い順番に付番されるわけではありません。
- ・必ず全ての室内機の電源が入っていることを確認してください。
- ・設定完了後リモコンの点検スイッチを押すと確定した室内機アドレスNo.と室外機アドレスNo.が表示されます。
- ・1つのリモコンで複数台制御する場合でも自動アドレス設定は可能です。
- ・1度登録したアドレスは電源を切ってもマイコンに記憶されています。
- ・自動アドレス後アドレスを変更したい場合は、リモコンで行う「アドレス変更」もしくは室内機アドレススイッチで行う「手動設定」により変更が可能です。
- ・変更する場合はネットワーク上の他のアドレスNo.と重複しないように設定してください。
- ・自動アドレスが終了するまでは集中制御機器の電源は投入しないでください。
- ・アドレス設定後は必ず試運転を実施し、全ての室内機、室外機が正常に運転できることを確認し各室内機のアドレスを確認してください。

アドレス変更 (SLⅡのみ可能)			
「アドレス変更」とは「 自動アドレス設定 」で既に設定した室内ユニットアドレスをリモコンで変更したい場合に使用します。 従ってリモコンによるアドレス変更ができる条件は次の通りとなります。			
	室内機アドレス設定		室外機アドレス設定
	室内No.SW	室外No.SW	室外No.SW
1 冷媒系統自動アドレス	000	49	49
複数冷媒系統自動アドレス	000	49	00～31

この条件以外のアドレス設定の場合に「アドレス変更▼」を選択した時点でリモコンに下記表示を3秒間します。
ドット液晶表示：「操作無効です」（3秒間点灯）

●自動アドレス設定時の7セグ表示

Code	表示内容
P30	通信方式表示 0：IBSL方式 1：SLⅡ方式 (通信状態を表示します。設定はできません。)
P31	自動アドレス開始入力
P32	開始アドレス入力 自動アドレス時の開始室内アドレスを指定する
P33	接続室内機台数入力 自動アドレス時の冷媒配管を接続している室内機台数を指定する
P34	極性送信 0：ネットワークを確定しない 1：ネットワークを確定する

Code	表示内容
AUX	自動アドレス設定中 X：室外機が認識した室内機の台数
AUE	室内機アドレス 付番 正常終了
End	極性確定（自動アドレス） 正常終了

Code	表示内容	ここを点検して下さい
A01	実際に通信できる室内機台数が7セグP33で設定した台数より少ない	信号線はゆるみなく接続されていますか。接続室内機台数を入力し直してください。
A02	実際に通信できる室内機台数が7セグP33で設定した台数より多い	信号線はゆるみなく接続されていますか。ネットワークコネクタは外してありますか。接続室内機台数を入力し直してください。
A03	開始アドレス(P32)+接続室内機台数(P33)>128台	開始アドレスを入力し直してください。接続室内機台数を入力し直してください。
A04	旧SL設定ユニットがネットワーク上に存在する時に、複数系統自動アドレス設定を行った。	手動アドレス設定を行って下さい。旧SL設定機をネットワークから分離してください。全てのユニットを新SL設定にして下さい。

Code	表示内容	要 因
E31	室外機アドレス重複	・同一ネットワーク上に複数のモジュールが存在
E46	設定不良	・同一ネットワーク上で自動アドレスとリモコンアドレス混在

	項 目	操 作	表 示
1	アドレス変更モード	①エアコンNo.スイッチを3秒以上押し続けてください。	「アドレス変更▼」
		②◆を押す毎に表示が切り換わります。	「アドレス変更▼」 ⇔「親室内アドレス▲」
		③「アドレス変更▼」表示のときにセットスイッチを押してください。これでアドレス変更モードとなり現在の設定アドレスを表示し、室内No.設定表示となります。	「内001 外01」(1秒) →「室内No設定◆」(1秒) →「内 001◆」(点滅)
2	新室内No.の設定	④◆スイッチにより新室内No.をセットしてください。▲スイッチで+1、▼スイッチで-1づつ表示が変化します。	「内 000▲」 ⇔「内 001◆」 ⇔「内 002◆」 ⇔「内 127▼」
		⑤アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室内アドレスNo.を確定します。	「内 002」(2秒)
3	新室外No.の設定	⑥確定した室内アドレスNo.を2秒表示した後、室外アドレスNo.設定表示となります。初期表示は現在の設定アドレスを表示します。	「内 002」(2秒点灯) →「室外No設定◆」(1秒) →「外 01◆」(点滅)
		⑦◆スイッチにより新室外No.をセットしてください。▲スイッチで+1、▼スイッチで-1づつ表示が変化します。	「外 00▲」 ⇔「外 01◆」 ⇔「外 02◆」 ⇔「内 31▼」
		⑧アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室外No.及び室内No.を確定します	「内002 外02」(2秒点灯) →「設定完了」(2秒点灯) →停止状態に戻る

	項 目	操 作	表 示
1	アドレス変更モード	①エアコンNo.スイッチを3秒以上押し続けてください。	「アドレス変更▼」
		②◆を押す毎に表示が切り換わります。	「アドレス変更▼」 ⇔「親室内アドレス▲」
		③「アドレス変更▼」表示のときにセットスイッチを押してください。リモコンに接続している室内機のうち最も若い番号を表示します。	「室内ユニット選択」(1秒) →「内 001 外01▲」(点滅)
2	変更する室内機の選択	④◆スイッチによりリモコンに接続している室内機と、それに接続している室外機の番号が順に表示されます。	「内001外 01▲」 ⇔「内002 外 01◆」 ⇔「内003 外 01◆」 ⇔「内016 外 01▼」
		⑤アドレス選択後、セットスイッチを押してください。変更する室内機アドレスNo.を確定し、室内No.設定表示となります。	「室内No設定◆」(1秒) →「内 001◆」(点滅)
3	新室内No.の設定	⑥◆スイッチにより新室内No.をセットしてください。▲スイッチで+1、▼スイッチで-1づつ表示が変化します。	「内 000▲」 ⇔「内 001◆」 ⇔「内 002◆」 ⇔「内 127▼」
		⑦アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室内No.を確定します。	「内 002」(2秒)
4	新室外No.の設定	⑧確定した室内アドレスNo.を2秒表示した後、室外アドレスNo.設定表示となります。初期表示は現在の設定アドレスを表示します。	「内 002」(2秒点灯) →「室外No設定◆」(1秒) →「外 01◆」(点滅)
		⑨◆スイッチにより新室外No.をセットしてください。▲スイッチで+1、▼スイッチで-1づつ表示が変化します。	「外 00▲」 ⇔「外 01◆」 ⇔「外 02◆」 ⇔「外 31▼」
		⑩アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室外No.及び室内No.を確定します	「内002 外02」(2秒点灯) →「次設定選択◆」(1秒点灯) →「室内機選択▼」(点灯)
5	終了	⑪引き続きアドレス変更を実施したい場合 ④に戻ります	「◆で選択」(1秒) →「設定完了」(2～10秒点灯)
		⑫終了したい場合1（変更したアドレスを反映する場合） ⑩の状態で▼スイッチを押し「終了▲」を選択してください。 アドレス変更が終了した場合は「終了▲」でセットスイッチを押して下さい。設定を送信している間、「設定完了」の表示がでます。その後リモコン表示が停止状態に変わります。 ⑬終了したい場合2（変更したアドレスを反映しない場合） 設定の途中で「運転/停止」スイッチを押してください。 本モードを強制終了し停止状態となります。 それまでに変更したアドレス設定は反映されません。	「終了▲」 →「設定完了」(2～10秒点灯) →停止状態 「運転/停止」 →強制終了

- ◆スイッチはを0.75秒以上押しつづけることで0.25秒毎に表示を連続して1づつ切換えます。
 - ・操作途中でリセットスイッチを押すと直前のセットスイッチ操作前の表示に戻ります。
 - ・本モードの途中で、室内No.を変更しても、「室内機選択▼」で表示される室内No.は本制御に入る前に記憶している室内No.を順に表示します。「設定完了」となった時点で、室内No.が確定します。
- 【ご注意】 ・集中制御機器はアドレス決定後、電源を入れてください。 ・電源を入れる順番を間違えますとアドレスを認識しない場合があります。

7ー2. 制御の切換

室外機の制御内容は、下記のとおり基板上のディップスイッチと7セグ上のPO○にて切換えることができます。
7セグ上のPO○切換時は、SW8(7セグ表示アップ：1位)、SW9(7セグ表示アップ：10位)及びSW7(データ書込/決定)長押しにて設定することができます。

制 御 切 換 方 法	制 御 切 換 内 容
基板上 SW設定	7セグ上 PO○設定
SW3-7 を ON*1	外部入力機能割り当てを“2”に設定*1
SW5-1 を ON + SW5-2 を ON	冷暖強制モード
SW5-1 を ON + SW5-2 を OFF	冷房試運転
室外機の液操作弁を開し、下記に示す順に操作する。 (1)基板上 SW5-2 を ON (2)基板上 SW5-3 を ON (3)基板上 SW5-1 を ON	暖房試運転
SW4-5:OFF, SW4-6:OFF*1 SW4-5:ON, SW4-6:OFF*1 SW4-5:OFF, SW4-6:ON *1 SW4-5:ON, SW4-6:ON *1	80% (出荷時設定) 60% 40% 0%
SW5-5	外部入力機能割り当てを“1”に設定*1
J13：短絡（出荷時設定）、J13：開放時	外部入力端子に信号を入力するとデマンドモードになります。（J13短絡時：レベル入力、J13開放時：パルス入力）
J15：短絡（出荷時設定）、J15：開放時	通信方式切換 ON：IBSL通信 OFF：SLⅡ
—	外部入力切換 (CnS1、CnS2のみ) 短絡：レベル入力、開放：パルス入力
—	デフロスト切換 短絡：通常デフロスト、開放：強化デフロスト
—	運転優先切換 0：先押し優先 (出荷時) 1：後押し優先
—	室外ファン防雪制御 0：制御無効 (出荷時) 1：制御有効
—	P03 室外ファン防雪制御 ON時間設定 30秒 (出荷時) 10、30～600秒
—	P04 デマンド率変更値 (2段階デマンドor省エネモード制御*2) OFF：無効 (出荷時) 000、040、060、080 [%]
—	P05 静音モード設定 0：制御有効 (出荷時)
—	P06 外部出力 (CnZ1) 機能割り当て
—	外部入力 (CnS1) 機能割り当て
—	P08 外部入力 (CnS2) 機能割り当て
—	P09 外部入力 (CnG1) 機能割り当て
—	P10 外部入力 (CnG2) 機能割り当て
—	P11～ 予備

- *1 外部入力機能割り当て (P07～10) と、SW両方が切り替えられた時に制御が切り換わります。
(例：CnS1を冷暖強制モードの入力に使用する場合P07を2、SW3-7をON、CnS2を冷暖強制モードの入力に使用する場合はP08を2、SW3-7をONする)
- *2 省エネモード制御の時は、外部入力端子に信号を入力しなくても能力制限が有効となります。

7セグ上で外部入力機能割り当て (P07～10) を切り換えることで外部入力端子の機能を切り換えることができます。外部入力端子に信号を入力すると下記の機能が有効になります。

外部入力機能割り当ての設定値	外部入力端子短絡時	外部入力端子開放時
"0"：外部運転入力	許可	禁止
"1"：デマンド入力	無効	有効
"2"：冷暖強制入力	暖房	冷房
"3"：静音モード1*1	有効	無効
"4"：予備		
"5"：室外ファン防雪制御入力	有効	無効
"6"：試運転外部入力1 (SW5-1同等)	試運転	通常
"7"：試運転外部入力 (SW5-2同等)	冷房	暖房
"8"：静音モード2*2	有効	無効
"9"：2段階デマンド入力	無効	有効
"10"：A F 定期点検表示	有効	無効
"11"：A F 異常表示	有効	無効
"12"：ヒルマルチ省エネ制御	有効	無効

- *1 外温によって有効/無効を切替える。
- *2 外温によらず常に有効。

7ー3. 外部入出力端子仕様

名 称	用 途 (工場出荷時)	仕 様	基板側コネクタ
外部入力CnS1	外部運転入力 (工場出荷時短絡)	無電圧接点(DC12V)	ニチアツ B02B-XAMK-2 (LF) (SN)
外部入力CnS2	デマンド入力 (工場出荷時短絡)	無電圧接点(DC12V)	ニチアツ B02B-XARK-2 (LF) (SN)
外部入力CnG1	冷暖強制入力 (工場出荷時開放)	無電圧接点(DC12V)	ニチアツ B02B-XAEK-2 (LF) (SN)
外部入力CnG2	静音モード入力 (工場出荷時開放)	無電圧接点(DC12V)	ニチアツ B02B-XASK-2 (LF) (SN)
外部出力CnZ1	予備出力 (外部出力)	DC12V出力	モレックス 5566-02A-RE
外部出力CnH	運転出力	DC12V出力	モレックス 5266-02A-BU
外部出力CnY	異常出力	DC12V出力	モレックス 5266-02A

